

第2号 稲作管理特報

令和3年4月30日
朝 日 町
黒東地域農業技術者協議会

育苗管理は換気を徹底し、活力の高い苗に仕上げましょう。

品質の高い「みな穂産米」生産のため、5月10日以降の田植えと適正な植付本数・植付深さの確保、70株／坪植え及び浅水管理で、初期分けつの発生を促しましょう。

1. 4月下旬以降の育苗管理

～換気を徹底する～

- ハウス内の温度が25℃以下となるよう換気しましょう。田植え1週間前頃を目安に、夜間もハウスを開け、外気に慣らしてください。ただし、気温が5℃以下になると予想される場合は閉めてください。
- かん水は、毎朝1回たっぷりと行いますが、フェーン時など床土が白く乾き、葉がまき始めたら、すみやかにかん水をしましょう。
- 「ばか苗」は必ず抜取り、抜き取った苗は放置せずに埋設しましょう。

2. 代かき

～除草剤の効果を高める～

- 代かきは田植えの2～4日前に行いましょう。
- 代かきは浅水で、稻わらを埋没させるとともに、ほ場の均平に努めましょう。
- 代かき後の濁り水は、ほ場外に流さないでください。また畦畔沿いに吹き寄せられた浮遊物は除去しましょう。

※代かき時に、水田から基肥一発肥料などの被覆殻が流出しないように注意する

3. 苗箱施薬剤の散布

～苗箱施薬剤は、除草剤と間違えないように散布する～

- 田植え3日前～田植え当日に、ルーチンブライト箱粒剤（1箱当たり50gを厳守）を均一に散布してください。
- 散布後は苗に付いた薬剤を払い落とし、軽く水をかけましょう。
- 育苗後に育苗ハウス内で野菜を栽培する場合、ハウス内の散布は行わないでください。

4. 基肥

～適正な基肥量を施用する～

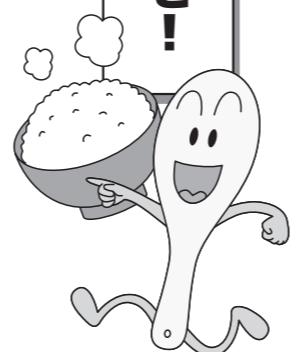
- コシヒカリの場合

施肥体系	肥料名	施用量(kg/10a)
一発体系	Jコートコシヒカリ1号または2号	38(側条)
分施体系	基肥206	30(側条)

※春に堆肥を1t/10a以上散布したほ場は、基肥の施用量を1～2割減肥。

- 田植前には施肥量調節ダイヤル値を確認し、一定距離を走って落下量を確かめてからご使用ください。また、ほ場毎に肥料の施用量を必ず確認してください。

70株植えと浅水管理で初期分けつを確保し、「穗数型稻」への誘導を!



5. 田植え

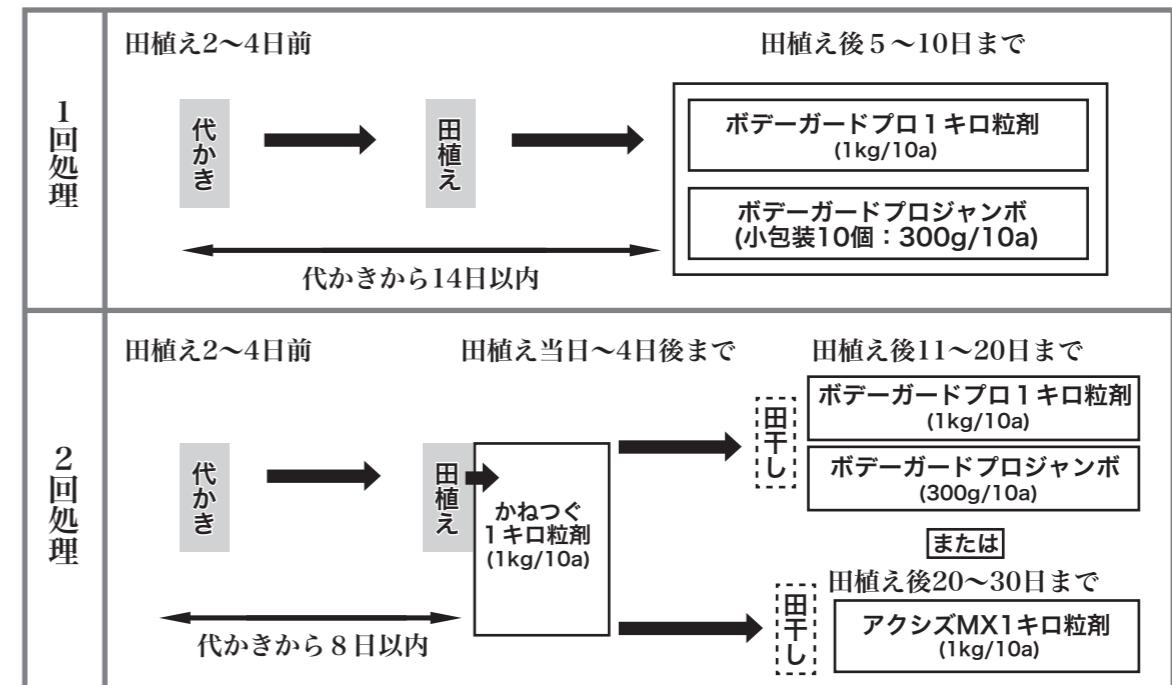
～適正な植付けと水管理で、分けつの確保に努める～

- 栽植株数は70株／坪とし、初期分けつと穗数の確保に努めましょう。
- 植付深さは3cm、植付本数は3～4本／株となるように調整してください。
- 田植え直後は苗が水没しない程度の深水とし、活着後は水深2～3cm程度の浅水管理に切り替え、分けつの発生を促しましょう。
- 入水は朝または夕方に行い、日中は水を止めて田水温の上昇に努めましょう。

6. 除草剤の散布

～使用方法を厳守し、適期に散布する～

- 散布前に5cm程度入水し、5日間は止め水のうえ、湛水状態を保つようにしてください。
- 水持ちの悪いほ場は、ゆっくりと入水し、田面の露出を避けてください。
- 散布後7日間は落水やかけ流しは行わないでください。
- 2回処理の場合、除草剤散布直前に軽い田干しを1～2日程度行うことで、藻への効果を高めるとともに、有害なガスの発生を抑制してください。



<かねつぐ1キロ粒剤を田植え同時処理する場合は、次のことに注意してください>

- ①漏水の多いほ場では使用しないでください。
- ②軟弱苗の場合、田植え同時処理を控えてください。
- ③極端な浅植えにしないでください。
- ④田植え後は、直ちに入水してください。

農薬は使用基準を正しく守り、使用後は栽培履歴簿に必ず記帳しましょう。